

# 物價變動ノ原因(四)

河 上 肇

## 六、貨幣ノ本位タルベキ金屬ノ價值ト一般

### 物價——其一、物價論上ノ生産費説

以上余ハ第二節ヨリ第五節ニ亙リ、ふいしゃー氏等ノ主張シツツアル新貨幣數量説ノ要領ヲ述べ、且之ニ向ツテ若干ノ批評ヲ加ヘタリシガ、今コノ貨幣數量説ニ對抗シ、之ト全ク別種ノ見地ヨリ貨幣ノ價值(即チ一般物價)ノ變動ヲ説明セントシツツアル學說中、最モ有力ナルモノトシテ、吾人ハ所謂生産費説ナルモノヲ擧グルコトヲ得。余ガ之ヨリ述ベントスルハ即チ其學説ノ要領ナルガ、茲ニハ之ガ代表者トシテしかび大學教授らふりん氏ノ所論一斑ヲ紹介スベシ。

氏ハ其著『貨幣原論』<sup>(1)</sup>第七章ニ於テ貨幣數量説ノ歴史ヲ述ベ、第八章ニ於テ之ガ批評ヲ試ミタル後、第九章ハ之ニ題シテ『物價ニ關スル眞ノ學說』トナシ、此章ニ於テ氏ノ主張ニ係ル所謂生産費説ナルモノヲ説明シテ居ルノデアル。余ハ先ヅ何等ノ解説又ハ批評ヲ加フルコトナク、只在リノママニ氏ノ所論ノ大要ヲ左ニ抄録スベシ。氏ハ論ジテ曰ク

(1) Barker, The Theory of Money, p. 88. 參照

(2) Laughlin, The Principles of Money, 1903.

「假ニ金本位制度ノ下ニ於ケル一般物價ニ就テ考究センニ、ソノ一般物價ヲ構成スル所ノ各貨物ノ價格ナルモノハ、此等貨物ノ一定量ガ、本位貨幣ノ實質ヲ構成スル所ノ金ト、如何ナル割合ヲ以テ交換セラルルカト云フコトヲ、言ヒ表ハセシニ過ギザルモノデアアル。サレバ如何ナル貨物ノ價格ニテモ、之ニ影響スル所ノ事情ハ、次ノ八種ニ限ラルベキデアアル。

(A) 金ノ側ニ於ケル事情

- (1) 金ノ生産費ノ減少、或ハ其供給ノ増加
- (2) 金ノ現存供給量ノ減少、或ハ其生産費ノ増加
- (3) 金ノ需要ノ増加
- (4) 金ノ需要ノ減少

(B) 或貨物ノ側ニ於ケル事情

- (5) 生産費ノ減少(又ハ競争ノ下ニ於テ其供給ヲ増加シ得ルニ至ルコト)
- (6) 生産費ノ増加、又ハ獨占
- (7) 其貨物ニ對シテ他ノ貨物ノ所有者ノ有セル需要ノ増加
- (8) 其貨物ニ對シテ他ノ貨物ノ所有者ノ有セル需要ノ減少

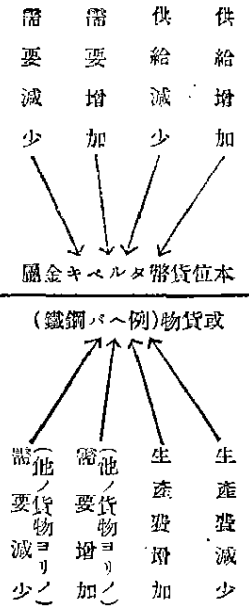
之ニ依リテ見レバ、貨物側ニ於ケル事情ニハ何等ノ變化ナシトスルモ、若シ金ノ需要供給ニ關スル事情ニシテ變化セリトセンカ、之ガ爲メ金地金ノ價值ニ變動ヲ生ジ、而シテ金地金ノ價值ノ變動ハ即チ貨物ノ價格ノ變動ヲ意味スルモノデアアル。例ヘバ、何等カノ理由ニ依リ金ノ供給新タ

ニ増加シタリトセンニ、若シ之ニ對シテ貨幣用トシテノ需要アラザル時ハ、其等ノ金ハ凡テ工藝用ニ供セラルルノ外ナケレドモ、シカモ金製品ニ對スル需要ニシテ變化ナキ限り、之ガ價格ハ其供給ノ増加ニ伴ウテ下落セザルヲ得ズ。然ルニ自由造幣ノ制度ニシテ行ハレ居ル限り、金製品ハ何時ニテモ貨幣ニ製造サレ得ベク、兩者ノ間ニハ密接ナル價值ノ連絡アルガ故ニ、己ニ金製品ノ價格ニシテ下落センカ、價值ノ標準トシテノ金モ亦、他ノ貨物ニ比較シテ其價值ヲ下落セザルヲ得ズ。而シテ己ニ金ノ價值ニシテ下落センカ、之ト交換セラルベキ貨物ノ價格ハ、之ニ伴ウテ騰貴シナケレバ勿ラスノデアル。勿論金地金ノ價值ニシテ下落セバ、其等ノ地金ハ次第ニ貨幣ニ製造サレ、臆テ流通貨幣ノ數量ヲ増加スルニ至ルベシト雖モ、元來貨物ノ價格ノ騰貴ハ、價值ノ標準タル金地金ノ價值ノ下落ヲ現象ノ半面トシテ、之ト同時ニ起ルコトナレバ、流通貨幣ノ數量ノ増加ハ、貨幣數量論者ノ唱フルガ如ク其原因タルモノニ非ズシテ、寧ロ其結果トシテ生ジ來ルモノデアル。

要スルニ、貨物ノ價格ニ影響ヲ及ボスベキ貨幣側ノ事情ハ、本位貨幣ノ實質ヲ構成セル金屬ノ需要又ハ供給ノ變動ニ外ナラザルモノナルガ、茲ニ注意スベキハ、今日ノ金本位國ニ於テハ、此ノ如キ事情ノ變化ニ本ク貨物ノ價格ノ變動ハ、概シテ輕微ニシテ且緩漫ナリト云フコトデアル。蓋シ金ハ他ノ貨物ト異リ持續性ヲ有スルモノナルガ故ニ、ソノ年々ノ産額ハ次第ニ蓄積サレ居ル

上ニ、殊ニ一八五〇年以來其産額ハ激増シタルガ爲ニ、全體ノ蓄積量ニ比スレバ、ソノ年々ノ産額ハ實ニ微々タルモノデアアル。サレバ金ノ供給額全體ノ上ニ激變ヲ起スガ如キコトハ、容易ニ生シ難キ現象ニテ、又縱ヒ其需要ニ著キ變動アリトスルモ、其需要ハ莫大ナル金ノ供給全體ニ振リ向ケラルベキモノナルガ故ニ、ソノ爲ニ金ノ價値方甚シキ影響ヲ蒙ルガ如キコトハ、容易ニ起リ得ザルモノデアアル。サレバ、若シ短期間ノ中ニ或貨物ノ價格ガ激變スルガ如キコトアランカ、其原因ハ先ツ貨物ノ側ニ於ケル事情ノ變動ニ求ムベキモノニテ、金ソノモノノ上ニ働ク諸原因ハ殆ド之ニ關係ナキモノト看做シテ差支ナキモノデアアル。

詮ズル所、或貨物ノ價格ハ、次ニ示スガ如キ諸種ノ原因ニ依ツテ左右サルベキモノデアアル。



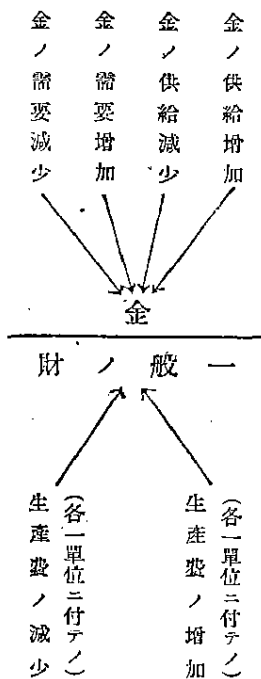
扱テ以上述べタル所ハ、或貨物ノ價格ノ變動ノ原因ナルガ、次ニハ個々ノ貨物ノ價格ノ代リニ、總ベテノ貨物ノ價格即チ一般物價ノ平準ガ如何ニシテ決定セララルルヤヲ考ヘ見ンニ、此問題ヲ攻

究スルニツキ、吾人ノ先ヅ注意スベキコトハ、所謂一般物價又ハ物價平準ナルモノハ決シテ抽象的ノモノニ非ズシテ、個々ノ貨物ノ實際ノ價格ヲ集合シタモノニ外ナラス、ト云フコトデアアル。

(此點ニ於テラブリん氏ノ見解ハ、前ニ述ベタルふいしヤー氏ノソレト異ル、委細ハ後ニ至ツテ評論スルコトアルベシ)。而シ

テ己ニ物價平準ナルモノニシテ果シテ個々ノ貨物ノ實際ノ價格ヲ集合シタルモノニ外ナラズトセシカ、之ヲ左右スル事情ハ、其内容ヲ成ス所ノ個々ノ貨物ノ價格ヲ左右スル諸種ノ事情ヲ合計シタルモノト全ク同一ナルベキガ如ク思ハル。乍併、猶ヨク考ヘ見ル時ハ、一般物價ト云フ場合ハ、金トソレ以外ノ他ノ總ベテノ財トノ間ニ於ケル價值ノ關係ナルガ故ニ、之ヲ左右スル事情ハ、個々ノ貨物ノ價格ヲ左右スル總ベテノ事情ヲ合計シタルモノトハ、自ラ多少ノ相違アルベキ筈デアアル。即チ金ノ需要又ハ供給ニ關スル事情ノ變化ハ、他ノ總ベテノ財ニ對スル金ノ價值關係ニ影響スル所アルハ疑ヒナケレドモ、併シ總ベテノ財ノ金ニ對スル價值關係ハ、貨物相互ノ間ニ於ケル需要ノ變化ノ爲ニハ何等ノ影響ヲ蒙ラザル筈デアアル。何故ト云フニ、貨物相互ノ間ニ於ケル需要ノ變化ハ貨物相互ノ價值關係ニ變動ヲ生ジ、從ツテ、例ヘバ甲ナル貨物ノ價值ハ乙ナル貨物ニ對シ比較的ニ騰貴スルガ如キコトアルモ、而カモソハ同時ニ乙ナル貨物が比較的ニ下落シタルコトヲ意味スル。而シテ其結果、一定量ノ金ヲ以テ購買シ得ラルル甲ナル貨物ノ分量ハ從前ニ比シ減少シ、又之ヲ以テ購買シ得シルル乙ナル貨物ノ分量ハ從前ニ比シ増加ストスルモ、而カモ一定

量ノ金ヲ以テ購買シ得ラルル總ベテノ貨物ノ全體ノ分量ニハ、何等ノ變動ヲモ變ゼザルガ爲デア  
 ル。此ノ如ク、貨物相互ノ間ニ於ケル價值關係ノ變動ハ、一般物價ノ平準ニ影響ヲ及ボスコトナ  
 キモノナルガ故ニ、一般物價ノ變動ヲ研究スル場合ニハ、吾人ハ、一般貨物ノ側ニ影響スル諸種  
 ノ事情ノ中、他ノ貨物ヨリ生ズル所ノ需要ノ増加又ハ減少ト云ヘル此等二個ノ事情ハ、全ク之ヲ  
 取り除カザルベカラザルコトトナル。從ツテ貨物側ニ於ケル四個ノ事情ノ中、殘存スル所ノモノ  
 ハ、貨物一單位ノ生産費ノ増加又ハ減少ト云フ二個ノ事情ノミトナル。即チ一般物價ノ平準ナル  
 モノハ、若シ貨幣側ノ事情ニシテ變化ナキモノトセンカ、凡テ貨物ノ生産費ノ増減ニ依ツテ左右  
 セラルルモノナルコトヲ知ルニ足ル。今以上ノ所論ニ基キ、一般物價ヲ左右スル諸原因ヲ圖ニ示  
 サバ、



大體右圖ノ如ク爲スコトヲ得。<sup>(3)</sup>

(3) Ibid, pp. 335-355.

以上余ハ、成ルベク簡單ニ、而カモ成ルベク忠實ニ、らふりん氏ノ説明ヲ紹介シタル積リナルガ、更ニ余ガ言葉ヲ以テ氏ノ説ノ精神ヲ摘マバ、之ヲ次ノ如ク言ヒ表ハシ得ベキカト思フ。

金單本位制度ノ下ニ於テハ、貨幣ノ價值(即チ一般物價)ナルモノハ、本位貨幣ノ實質ヲ構成セル金屬(即チ金)ニ對スル吾人ノ主觀的價值ト、其金屬以外ノ一般ノ財ニ對スル吾人ノ主觀的價值トノ比較ニ依リテ定マル。然ルニ、吾人ガ貨幣用ノ金屬及ビ其他ノ一般ノ財ニ對シテ有スル主觀的價值ハ、此等ノ財ニ對スル吾人ノ欲望ノ強弱並ニ此等ノ財ノ生産費ノ多少ニ依ツテ定マルモノデアル。從ツテ一般物價變動ノ原因ハ、此等諸種ノ事情ノ變動ニ求ムベキデアル。

らふりん氏ノ説ノ精神ハ以上ノ如クナルベシト信ズルガ、只氏ガ一般ノ財ニ對スル欲望ノ消長ヲ無視シ、單ニ其生産費ノ變動ノミヲ以テ、貨物側ニ於ケル一般物價變動ノ原因ヲ盡セルモノト爲セル點ハ、一應ハ氏ノ説明アルニ係ラズ、其説明不十分ニシテ、余ノ遂ニ解スルヲ得ザル所デアル。

扱テ以上述べタルらふりん氏ノ所説ヲ以テ、第二節以下ニ述べタルふいしヤー氏等ノ所説ト比較セバ、其ノ間次ニ指摘スルガ如キ見解ノ差異アリト思フ。

第一、ふいしヤー氏ノ所説ニ依レバ、<sup>(4)</sup>一般物價ノ平準先ヅ定マリ、然ル後個々ノ貨物ノ價格ハ

(4) Fisher ノ所説ト謂フハ、所謂物價方程式ヲ議論ノ出發點トセル一般物價論ノ全體デアル。而シテ所謂貨幣數量説ハ、只其物價論中ノ一部ニ過ギザレドモ、而カモ最も特色アル部分ニシテ、余ノ評論ヲ加ヘタルモ主トシテ其點ニ存ジタ譯デアル。

定マルベキモノナルニ反シ、らふりん氏ノ所説ニ依レバ、<sup>(5)</sup>個々ノ貨物ノ價格先ヅ定マリ、然ル後之ヲ通算シテ始メテ一般物價ノ平準ヲ知り得ベキモノデアル。

此點ニ關スルらふりん氏ノ主張ハ、前既ニ一言シ置キタルノミナラズ、普通人ガ常識ニテ考フル所ト略ボ一致スルガ故ニ、詳ク之ヲ紹介スルノ必要ナケレドモ、ふいしや一氏ノ主張ニ至リテハ、一應改メテ之ヲ紹介スルノ必要アルベシ。試ニ氏ノ説明ヲ見ルニ次ノ如クデアル。<sup>(6)</sup>

『例ヘバ砂糖ノ價格トハ、砂糖ト貨幣トノ間ノ比例デアル。サレバ砂糖ヲ買フ者ハ、何人ニテモ其心ノ中ニテ、砂糖ガ彼ニトリテ必要ナル程度ト、之ニ向ツテ彼ノ支拂フベキ貨幣ガ彼ニトリテ必要ナル程度トヲ、比較スベキデアル。而シテ彼ガ心ノ中ニテ斯カル比較ヲ爲スニ當リテ、貨幣ハ如何ナルモノトシテ彼ノ心ノ中ニ映ルカト云フニ、ソレハ、若シ之ヲバ砂糖ヲ買フガ爲ニ消費セザリシナラバ、砂糖以外ノ如何ナル品物ヲ買ヒ得ベキカト云フコトニ依リテ決マルノデアアル。サレバ若シ貨幣ノ一般の購買力ニシテ大ナラバ、貨幣ハ彼ノ心ニ頗ル貴重ナルモノトシテ映リ、從ツテ其購買力ノ小ナリシ場合ニ比スレバ、彼ハ一定額ノ貨幣ヲ支拂フコトヲ一層躊躇スルコトト爲ル。即チ貨幣ノ一般の購買力ガ大ナレバ大ナルホド、特ニ砂糖ニ向ツテ提供セラルル貨幣額ハ小トナル筈ニテ、砂糖ノ價格ハ之ガ爲ニ低カラザルヲ得ザルコトト爲ル。換言スレバ、砂糖ノ價格ハ常ニ一般物價ニ伴ウテ變動スベキモノニテ、若シ一般物價ニシ

(5) Laughlinノ所説ヲ謂フハ、矢張り氏ノ物價論中、全體ヲ指カシテ而シテ氏ノ所説ナラレツアルカ爲ニシテ、生産費説ハ實ハ物價論ノ一部ニシテ、最モ重テアル。 (6) Fisher, Elementary Principles of Economicsノ第十五章第一節 Individual prices presuppose a price levelト云ル所ニ依リテ



テ高ケレバ砂糖ノ價格モ高ク、又一般物價ニシテ安ケレバ砂糖ノ價格モ之ニツレテ安クナルノ  
デア。之ヲ要スルニ、砂糖ノ購買者ガ如何ホドノ貨幣ヲバ砂糖ト交換スベキカト云フコトヲ  
決定スル爲ニハ、其ヨリ以前ニ、彼ハンノ貨幣ヲ以テ砂糖以外ノ如何ナル貨物ヲ買ヒ得ルカト  
云フコトニ就キ、若干ノ觀念ヲ有シ居ラザルベカラザル筈ニテ、取りモ直サズ、一般物價先ツ  
定マリ、然ル後始メテ個々ノ貨物ノ價格ハ定マルモノデア。』

以上引用セシ所ニ依リテ考フルニ、ふいしや一氏ノ主張ニモ一應ノ道理アルガ如ク見ユレドモ、  
而カモ茲ニ注意スベキハ、氏ガ謂フ所ノ一般物價ト個々ノ貨物ノ價格トハ、二者ソノ時ヲ同ジウ  
セザルモノニテ、即チ前者ハ過去ニ屬シ後者ノミ獨リ未來ニ屬スト云フコトデア。詳ク言ハバ  
過去ニ於ケル一般物價ノ平準ニ依リテ定マル所ノモノハ、吾々ガ今日貨幣ニ對シテ有シツツアル  
價値判斷デア。而シテ貨幣ニ對スル此價値判斷ニ本キ、吾々ハ果シテ一定ノ價格ニ於テ一定ノ  
貨物ヲ購買スヘキヤ否ヤヲ決定スルモノニテ、之ニ依リテ個々ノ貨物ノ價格ハ定マリ、且此ノ如  
クニシテ決定セラレタル價格ニ依リテ其時ノ一般物價ノ平準ガ定マルデア。然ルニ、吾人ノ  
茲ニ研究セントスル所ノモノハ、一般物價決定ノ原因如何ト云フコトニ在ルガ故ニ、ソノ指ス所  
ノ一般物價ナルモノハ、之ヨリ將ニ成立セントスル所ノ個々ノ貨物ノ價格ノ集合ニ依ツテ始メテ  
決定セラルルモノテ無クテハ勿ラヌデア。ふいしや一氏ノ所説ハ、恐ラク此點ニ關スル誤解

アルヲ免レヌデアラウ。

第二、ふいしヤー氏等ノ所謂貨幣數量説ニ在リテハ、一般物價變動ノ原因ト爲ル貨幣側ノ事情ハ、主トシテ貨幣流通額ノ増加ニ在リト爲シ、且之ヲ以テ一般物價變動ノ主要ナル原因ノ一ト爲セルニ反シ、ラふりん氏ノ所謂生産費説ニ在リテハ、一般物價變動ノ原因ト爲レル貨幣側ノ事情ハ、本位貨幣ノ實質ヲ構成セル金屬ニ關スル需要及ビ供給ノ變動ニ在リト爲シ、且之ヲ以テ一般物價變動ノ原因トシテハ、比較的輕微ニシテ且緩漫ナルモノニ過ギズト爲シ、寧ロ之ヲ輕視スルノ傾向ガアル。又貨幣數量説ニ在リテハ、一般物價變動ノ原因トナル貨物側ノ事情ハ、貨幣又ハ其代用物ト交換サルベキ貨物ノ數量ノ變動ニ在リト爲セルニ反シ、生産費説ニ在リテハ、之ヲ以テ貨物ノ生産費ノ變動ニ在リト爲ス。從ツテ生産費説ニ在リテハ、貨物ノ生産費サヘ變化セバ、其數量ニハ何等ノ變化ナクトモ、之ニ依リテ一般物價ノ變動ヲ生ズベシト爲セルニ反シ、貨幣數量説ニ在リテハ、縱ヒ、貨物ノ生産費ニシテ變化スルモ、之ガ爲メ其數量ニ變化ヲ生ズルニ至ラザル限り、一般物價ハ變動スベキモノニ非ズト爲スノデアアル。猶之ト同ジャウニ、生産費説ニ在リテハ、本位貨幣ノ實質ヲ構成スベキ金屬ノ價値ニシテ變化スル時ハ、貨幣ノ流通額ニハ何等ノ變化ナクトモ、一般物價ハ之ニヨリテ變動ヲ呈シ來ルベシト爲セルニ反シ、貨幣數量説ニ在リテハ、縱ヒ、貨幣用ノ金屬ノ價値ニシテ變化スルモ、之ガ爲メ貨幣ノ流通額ニ變化ヲ生ズルニ至ラザル限り、

一般物價ハ變動スベキモノニ非ズト爲スノデアル。而シテ此點ガ兩者ノ主張ノ相違セル要點タルコトハ、吾人ノ言ヲ俟タザル所デアル。

扱テ以上ノ如ク兩者ノ主張ヲ對比シ來ル時ハ、互ニ全ク相容レザルガ如ク見ユレドモ、近頃ビ  
じウ氏モ言ヘルガ如ク。<sup>(7)</sup> 凡テ貨幣ノ價值ニ關スル學者ノ主張ハ、一見頗ル相違セルガ如クニシテ、  
其實質ハ必ズシモ甚シク相背反セルモノニ非ズ。貨幣數量説ト生産費稅トノ如キモ亦然リ。例ヘ  
バ、本位貨幣ヲ構成セル金屬ノ價值ニシテ變動センカ、之ニ伴ウテ流通貨幣ノ數量ニモ亦一定ノ  
變動ヲ生ズルハ普通ノコトデアル。只生産費説ト貨幣數量説トノ主張ノ相違スル所ハ、前者ハ金  
屬ノ價值ノ變動ヲ以テ一般物價變動ノ根、本原因ト爲セルニ反シ、後者ハ多クノ場合之ニ伴ウテ生  
ズル所ノ流通貨幣ノ數量ノ變動ヲ以テ一般物價變動ノ直接原因ト爲セル點デアル。又例ヘバ、貨  
物ノ生産費ニシテ或ハ増加シ或ハ減少スルコトアランカ、多クノ場合ニハ其供給モ亦之ニ伴ウテ  
或ハ減少シ或ハ増加スルモノデアル。而シテ生産費説ト貨幣數量説トノ主張ノ相違スル點ハ、只  
前者ハ貨物ノ生産費ノ變動ヲ以テ一般物價變動ノ根、本原因ト爲セルニ反シ、後者ハ多クノ場合之  
ニ伴ウテ生ズル所ノ貨物ノ生産高及ビ取引高ノ變動ヲ以テ一般物價變動ノ直接原因ト爲セル點デ  
アル。此ノ如ク解釋シ來ル時ハ、二者ノ主張殆ド並行スルガ如キモ、而カモ根本ノ思想ニ於テ甚  
ダ相容レザルモノガアル。請フ節ヲ改メテ此事ヲ論ゼン。

(7) Pigou, The Value of Money (The Quarterly Journal of Economics, Nov., 1917 p. 38.)